



竹内滋泰
市政クラブ

地域強靱化計画の進捗と
実効性確保に向けた取組

問 災害拠点病院に指定された市民病院の計画への位置づけを伺う。

答 災害拠点病院を指定・管理するのは県であるため、具体的な動きや役割は、県が定める医療計画や地域防災計画で細かく規定されている。

問 京都大学との連携による、地震発生の際の約1時間前に予測を行うOHBシステムの活用と今後の展開を伺う。

答 昨年6月に京都大学と共同研究に関する契約を締結し、令和8年1月に市役所新館屋上に観測用アンテナ、GNSS受信機を設置。今年度は、昨年12月に京都大学が開発した「準リアルタイム大地震発生異常検知システムβ版」と本市に設置し



た観測機（GNSS受信機）を組み合わせて、地震の発生前に解析を完了し、その結果を共有するアラート発出システムを構築。24時間共同検証の実現を目指していききたいと京都大学の梅野教授から聞いている。

問 京都大学との寄附講座の枠組みを活用した市民向けの情報提供システムを伺う。

答 この研究は蒲郡市のみならず、日本全体に可能性を感じる共同研究と考える。成功させるには体制作りが必要だが、そのために、寄附講座が有効であるか、京都大学の方々と相談し判断していく。



鈴木基夫
自由クラブ

地域イネープリング
について

問 人々の幸福の実現を目的として掲げているムーンショット計画の方向性を意識しながら、本市の特性を踏まえた計画づくりを進めることには意義があると思うが、市の考えを伺う。

答 内閣府が少子高齢化社会や大規模自然災害、地球温暖化といった将来の社会課題を解決するため、人々の幸福で豊かな暮らしの基盤となる「社会」「環境」「経済」の3領域において10個のムーンショット目標を設定しており、これらの目標を射程とした計画がムーンショット計画であると認識している。このムーンショット目標全てがウェルビーイングの実現を目指してい

るものであり、ウェルビーイングを重視している本市においては、この計画の理念を意識した施策を進めていくものと考えている。本市はムーンショット計画にすでに関わっている横浜市立大学の武部貴則特別教授の支援を得ながら「イネープリングシティ基本計画」を策定し、「イネープリングシティ蒲郡」の形成を進めている。その武部教授から最新の専門的知見を得ながら、「0次予防」「予測医療」「先進医療」の全てが提供できる「蒲郡市らしい未来モデル」の実現に向けて推進していきたい。



るものであり、ウェルビーイングを重視している本市においては、この計画の理念を意識した施策を進めていくものと考えている。本市はムーンショット計画にすでに関わっている横浜市立大学の武部貴則特別教授の支援を得ながら「イネープリングシティ基本計画」を策定し、「イネープリングシティ蒲郡」の形成を進めている。その武部教授から最新の専門的知見を得ながら、「0次予防」「予測医療」「先進医療」の全てが提供できる「蒲郡市らしい未来モデル」の実現に向けて推進していきたい。



伊藤享佑
市政クラブ

障害児通所支援と
相談支援体制の強化

問 療育手帳更新の際に、申請者が豊橋市にある愛知県東三河児童・障害者相談センターへ赴き面接を受ける必要があるが、本市での出張面接の可否を伺う。

答 現時点において出張面接はできないが、療育手帳を利用する方の利便性向上のために今後も引き続き県に要望を行っていく。

問 障害児通所給付サービス量の支給量決定について、基準を設けているか伺う。

答 現在、支給量決定について明確な基準を設けていないが、年々サービス利用者は増加している。今後、基準を設ける必要性が生じることも考えられるため、調査研究を行っていく。



蒲郡市児童発達支援センター

問 障害児や医療的ケア児の受入体制について伺う。

答 令和7年度に「蒲郡市医療的ケア児支援地域連携協議会」を設置した。

今年度から児童発達支援センターに看護師1名を配置し、秋ごろには、「医療的ケア児」として定義されない児童への支援も含めて幅広く対応できるよう「医療的ケア児等」を対象に学校における看護師派遣事業を開始する予定である。

今後、看護師1名では対応できない場合は、訪問看護事業者の活用についても検討していく。